しなし V1防衛

激闘の舞台裏

しなしさとこがスマックフライ級ベルトの防衛に成功し、ほっとひと安心の『しなしスポーツ』編集部の面々。しかし、勝ち負けだけで見てはこの試合の本当の意味はわからないのではないか？しなし番記者2名に本紙デスクが聞いてみた。

しなしスポーツ

2007年3月24日（土）
王座防衛記念特別号

ブラジル特訓で見えたもの

デスク（以下D）「しなしが勝ったな。」

記者A（以下A）「勝ちました。しかし瀧本、強い。」

記者B（以下B）「予想通り強かったです。」

D「彼女の強さとはいったいなんだ？」

B「ストライカーとかグラップラーとかいう分類に入らないことですね。ようするに全部出来る。高いレベルで。」

A「だから、これといった弱点が無い。」

D「つまり攻略しにくいということか？」

B「そうです。瀧本に勝つには攻略法は無いんですよ。正面からお互いに持ってるものを全部出し合うような総力戦になるんです。」

D「それはしんどいな。では、しなしはその総力戦でどうして勝てたのかな？」

A「一般に瀧本はオールラウンダー、しなしは組み技というイメージが出来ているけど、実はしなしも総力戦を出来るぐらいにワザの引き出しは多いって事。」

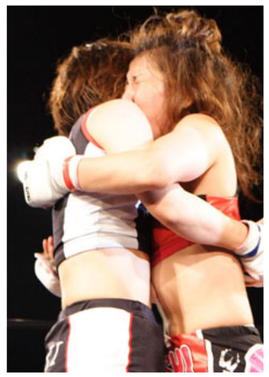
D「ああ。スタンドでも打ちに出てたな。」

A「打ち勝ってた。得意の組み技では一本寸前まで負いこんだので、勝利は当然でしょう。」

B「カタログデータ的には瀧本のほうがいろいろそろってるんですけど、そういうのに出ないところでしなしにはアドバンテージがあると思います。」

A「うん。踏んで来た修羅場の違いと言うかな。総合では瀧本としなしは同期だが、しなしにはその前の柔道時代、サンボ時代の実戦経験も多い。」

D「つまり、格闘技キャリア全体ではしなしのほうが上というのが出てくるわけか。さすが三十路の貫禄だな。」


健闘を称え合う両選手

B「あのー、女性にそんな言い方するのは失礼だと思いますよ。たしかに三十路には違いないけど、ほしのあきと2ケ月と変わらないです。」

D「んー、わかった。許してほしーの。」

B「……。」

A「…具体的に試合を振り返ってみようか。」

B「1Rは瀧本のいいところが出てましたね。」

A「ああ、素晴らしかったな、でも、そのまま瀧本に流れを持っていかれないで、自分のほうに変えてしまうのがしなし。」

B「瀧本はもっと打ってくるかと思いましたが、そうでもなかったですね。」

A「打った手を取られることを警戒したか。」

B「ロングレンジではいいのを当ててきたけど、ミドルレンジで打ち勝ってたのはしなしでした。プレッシャーに負けて瀧本が下がる場面も。」

A「総合の打撃として、よく機能していた。相手の攻撃をつぶす、自分がペースを握る、そのために有効だった。」

B「背負い投げは研究されてましたね。」

A「あそこまで完璧に対処した選手は初めてだ。しかし背負いが駄目なら大内刈りでテイクダウン。」

B「蹴りを掴んで投げてましたね。あれは蹴りへの牽制としていいですね。」

A「牽制というより瀧本じゃなかったらあれで壊れる。怖い技だ。」

D「ドラゴン背負いのことか。」

B「ドラゴン背負いという技なんですか？」

D「いや、言ってみただけ。」

B「……。」

D「信濃の龍にドラゴンスクリューみたいな、背負いみたいな技出したんだからドラゴン背負いでいいだろ。」

A「プロレスでは背負い式ドラゴンスクリューという名前がすでに付いてますよ。」

D「全然回転してないのにスクリューはおかしいだろ。ドラゴン背負いでいいの。」

B「勝手に命名してるし。」

A「しなしは寝技も充実してた。」

B「ええ。以前よりしぶとくなってましたね。ひとつの狙いがはずれても次のところを狙っていく、時間切れの30秒ギリギリまでトライを続けるとか。」

A「2Rの腕十字はさすがだった。あの体勢から持っていくとは。」

B「惜しかったです。」

A「守りも安定していた。」

B「瀧本が関節をしかけてくる場面が少なかったのは、しなしに隙がなかったからですね。」

A「そう。取らせない動きをしていた。」

B「ときどき亀の体勢になるのが印象悪かったですけどね。」

A「あれは試合中にのどか痛めて、回復するまでの時間稼ぎだったらしいが。」

B「しかしあれで判定が割れたと思いますよ。」

A「フルラウンドやったから体力面でも勝負になったな。」

B「瀧本対リサでは、リサが体力切れしてたけど、しなし対瀧本では瀧本がしんどそうでした。」

A「5分3ラウンドは大変だよ。しなしは最後まで動きが落ちなかった。」

B「すごいスタミナですね。ブラジル修行でそうとう鍛えてきましたね。」

D「ブラジルは標高が高いから高地トレーニングみたいな効果があるんだな。」

B「デスク、なに言ってるんですか？ブラジルは高地ではないですよ。」

D「え、そうなの？あ、メキシコと間違えてた。」

A「間違えないでしょ、普通。」

B「しなしは真夏のブラジルでそうとう追い込んだ鍛え方をしましたね。」

D「体幹がしっかりした印象だな。」

A「確実にパワーアップしてる。」

B「帰国した当初はもっとデカかったらしいです。」

A「瀧本もかなり練習したんだろうが、前の週に発熱してコンディション落としたらしい。」

B「しなしの方は試合当日に発熱してたそうです。」

D「練習のし過ぎか、あるいは、タイトル戦のプレッシャーかな。」

B「でも、しなしは試合中に笑顔がありましたよ。」

A「いいのもらって微笑んだりしてたな。」

B「試合が楽しかったそうです。」

A「表情にはゆとりがあった。」

B「試合後の涙は感動的でした。」

A「渡辺久江との第1戦以来の涙だったな。」

B「瀧本のほうも泣いてました。」

A「あのクールな瀧本が。しなしと戦った相手はみんな表情が出る。」

D「おれはその場面は見ないで帰ったよ。おんなを泣かすのはおれの趣味ではないんでな。」

B「べつにデスクのために泣いたわけではないです。」

D「言ってみただけ。」

B「…もういいです。」

駆け寄ったファンに笑顔でこたえる王者しなしさとこ

魅せた！魂の名勝負！